

三井物産環境基金
2012年度 研究助成
東日本大震災 復興助成
募集要項

2012年9月

三井物産株式会社

目 次

はじめに	1
1. 応募資格	3
2. 助成対象案件	3
2.1 研究領域	3
2.2 研究課題	4
2.3 復興助成において重視する課題及び留意事項	5
2.4 その他 評価基準	5
2.5 継続申請	6
2.6 非対象研究	6
3. 助成期間	6
4. 助成金額と使途	6
4.1 1件当たりの助成金額	6
4.2 助成の対象となる費用	7
4.3 助成の対象とならない費用	7
4.4 自己資金比率	7
4.5 助成金支払い時期	8
5. 報告の義務	8
5.1 進捗報告	8
5.2 会計報告	8
5.3 最終報告	8
5.4 現地訪問	8
6. その他の条件	8
6.1 助成契約の締結	8
6.2 成果の公表	8
6.3 助成を受ける団体の成果等の公表	9
7. 選定方法	9
7.1 選定プロセス	9
7.2 選定結果の通知・開示	9
8. 応募手続き	10
8.1 応募締切	10
8.2 申請書類	10
8.3 申請書類に関する注意事項	11
8.4 申請書類の提出先	11
8.5 お問い合わせ先	11
8.6 個人情報の取り扱い	12

はじめに

当社は2005年より、環境分野における助成プログラムとして「三井物産環境基金」を立ち上げ、地球環境問題の解決と持続可能な社会構築に貢献する様々な案件を支援してきました。具体的には、環境貢献活動を対象とした「活動助成」、および研究を対象とした「研究助成」の2つのプログラムを通じ助成を行っています。

2011年度からは、東日本大震災による未曾有の被害に鑑み、地震、津波によって発生した様々な環境問題を改善・解決し、持続可能な社会の再生を目指す、復興への取り組みに対し支援を行う「復興助成」を開始し、活動助成及び研究助成の双方のプログラムで助成を行っています。震災の復興には長期的な取り組みが必要であり、助成へのご要望も多いことから、2012年度も復興助成を継続して実施しています。

被災した地域における50年先、100年先を見据えた、伝統と先進性が共存する持続可能な社会の実現に向け、皆様の活動・研究に当基金をご活用頂ければ幸いです。皆様からの積極的なご応募をお待ちしています。

当社の研究助成について

当社の社会貢献は国際交流、教育、環境の三分野を中心として、様々な取組を行っていますが、環境面における社会貢献活動としてもっとも重要な取組が、三井物産環境基金です。既にご説明申し上げた様に地球環境問題の解決と持続可能な社会の構築に資する、NPOを中心とする非営利団体の活動と大学を中心とする研究を対象に支援を行っております。

総合商社として貿易や事業投資、金融等を駆使した資源開発等を本業とする当社が、環境分野における社会貢献として、なぜ大学や研究機関の行う科学研究を支援するのか、その意義はどこにあるのか、当社自身にとっても重要かつ真剣なテーマです。

現代社会は、環境問題、貧困や児童労働、人権やジェンダーにかかわる問題、政治、経済、宗教など様々な、しかも深刻な多くの問題に直面していますが、環境に係る問題は、人類の未来、発展にとって極めて大きな問題です。気候変動、干ばつ・砂漠化、水問題、森林消失、生物多様性の喪失等、様々な問題と、人口爆発やエネルギー消費など人類が地球環境に対し非常に大きな負荷を掛けていることは大きな関係があると考えられます。一方で、人類は今後も安全で人間らしい生活をおくることができる未来、持続可能な社会を求めてゆかなければなりません。CO₂の削減や省エネルギーなどの研究が進み、様々な技術や商品が開発され、利用され始めてはいますが、まだまだ多くの解決を待つ問題があります。これらの環境問題はすべてが複雑に絡み合い、より総合的、分野横断的な分析・研究に基づく解決策の追及が必要であると考えています。

当社の環境基金はこのような学際的、総合的な研究を支援することにより、現代の環境問題により実践的に取り組み、成果を上げたいと考えています。もちろん、基礎研究や萌芽的研究を否定するものではありませんが、現代の環境課題に対する深い問題意識に基づき実践的な解決策を追及するための学際的、総合的な取組による研究を支援したいと考えています。科学研究のための様々な資金のなかで、一民間企業の提供する資金として、当社がどのような意図により基金を運営しているのか、何を目的としているのか、より明確に表現することにより、第一線で活躍されている研究者の皆様のご理解を得て、皆様の英知を結集し、未来への道筋を切り拓いて頂きたいと考えるものです。

また、3.11 東日本大震災への取り組みは環境基金としても今回継続して行います。東北地方の自然、農林・水産業を中心とする産業基盤や社会基盤の復旧、復興も全日本的課題であります。今回の募集では、研究分野における復興助成についても引続き、課題解決型の研究について、皆様の積極的なご応募をお願いするものです。

1. 応募資格

日本国内に拠点を持ち、かつ、研究実績を3年以上持ち、下記①～⑤のいずれかに該当する団体あるいはグループを対象とします。

- ① 大学、高等専門学校（※ 1）
- ② 公的研究機関（※ 2）
- ③ 公益法人（※ 3）
- ④ 特定非営利活動法人（NPO 法人）
- ⑤ 上記①～④の協働グループ

なお、申請は、申請代表者が所属する団体からとし、当該団体の上長（契約権限を有する方、例えば、大学の場合は学部長、学長等、公益法人・NPO 法人等の場合は理事長等）の承諾を得ていることを条件とします。また、大学、高等専門学校、公的研究機関に関しては、申請代表者は、当該団体に所属する職員の方とします。

※ 1 高等専門学校も応募資格対象とします。

※ 2 公的研究機関とは、独立行政法人、地方独立行政法人、自治体の研究機関を指します。

※ 3 公益法人とは、2008 年の公益法人制度改革後の一般社団・財団法人、公益社団・財団法人、及び特例民法法人を指します。

2. 助成対象案件

2.1 研究領域

研究助成については、“学際・総合／政策研究”、“国際共同研究”、“未来指向研究”を3つの基本的な領域として設定し、このうち、“学際・総合／政策研究”であることは必須条件とし、同領域あるいは同領域を含む複数に合致するものを対象とします。

また、単なる観察型研究ではなく、「問題解決型研究」として社会に貢献する研究であり、具体的な提言を含むことを必須とします。

本基金における環境研究の捉え方、及び助成研究設定の基本的な視点等については、次ページ「案件選定委員からのメッセージ」をご参照ください。

- | |
|---|
| <p>A. “学際・総合／政策研究”： 特定の専門分野内に留まらず、被災地の復興ならびに地球環境問題の解決に向けて複数の分野にまたがる包括的な視点等を有している研究、乃至は、その成果が効果的な政策、制度設計等へ貢献すると考えられる研究。</p> <p>B. “国際共同研究”： 海外研究機関等と共同の研究体制を形成し、国際的な視点から被災地の復興ならびに地球環境問題の解決に貢献すると考えられる研究。</p> <p>C. “未来指向研究”： 過去の解釈、分析等に留まらず、被災地の復興ならびに地球環境問題の解決に向け、中長期的視野で目指すべき将来の方向、姿、</p> |
|---|

乃至はその実現に向けての戦略、シナリオ等を提示し得ると考えられる研究。

＜案件選定委員からのメッセージ＞

本基金における環境研究の捉え方、および助成研究選定の基本的な視点等について

環境問題は人間活動の影響が地球の能力の限界を超えることで生じるものであり、この両側面の定量的研究と相互作用の分析が問題解決の第一歩であります。単なる観察型の研究を行うことだけではなく、問題解決に資する成果を出すことによって、社会に貢献することが求められる研究分野でもあります。本基金として支援の対象として優先したい“環境研究”とは、明確に問題解決型研究として位置づけられるもので、具体的な提言を含むものであります。

本基金では、“学際・総合／政策研究”、“国際共同研究”、“未来指向研究”を3つの基本的な領域として設定していますが、環境研究においては、環境問題が持つ複雑、複合的課題に対応した総合的な視野・視点を持ち、自然科学・社会科学の双方に係る要素の解析を行い、最適と思われる解を導くような“学際的かつ総合的な研究”であることが必須であると考えます。こうした研究に取り組むには、細分化された専門的組織、あるいは、単一の機関に所属するメンバーのみで構成された研究組織では不十分で、オールジャパン的視野で選抜されたハイレベルな人的構成による研究体制をもつことが必要であると考えます。加えて、環境問題の個別性、地域性を踏まえた上で、現実に根ざした着眼点があるかどうかにも着目したいと考えます。

レベルの高い問題解決型の環境研究の提案を期待します。

2.2 研究課題

申請者が主体的に取り組む研究で、東日本大震災の被災によって発生した環境問題の改善・解決、及び被災した地域における、地球環境に配慮した持続可能な社会の復興・再生を行う研究で、下記研究課題に関わるもの。(必ずしも下記の全ての課題の案件が選定されるとは限りません。)

- A. 地球気候変動問題
- B. 水産資源の保護・食料確保
- C. 表土の保全・森林の保護
- D. エネルギー問題
- E. 水資源の保全
- F. 生物多様性及び生態系の保全
- G. 持続可能な社会の構築

2.3 復興助成において重視する課題及び留意事項

今回の復興助成において重視する課題、及び重要な留意事項は次の通りです。

復興助成において重視する課題

1. 被災地の人々からの視線で見たとき、東北地域の復興に寄与すると考えられる課題。
2. 東北以外の組織からの提案の場合には、その成果が当該組織の地元社会の啓発にも資するような課題。(例えば、風評被害の理解・低減のリスクコミュニケーションなどの要素を含むもの。)

復興助成における重要な留意事項

1. 東北被災地の特性に配慮した研究であるもの。
2. 観察の場としての興味ではなく、新たな提案による支援を目指す研究であるもの。
3. 汎用技術の開発、あるいは今回の被災の経験を将来に活かすタイプの研究は、復興助成ではなく一般助成の対象とする。
4. 放射線リスクの削減に関わる研究は、特定の地域への対応に限定。その他は、一般助成の対象とするが、本基金での優先度は低い。

2.4 その他 評価基準

上記 2.3 に加え、以下の基準に基づき評価・選定を行います。

- ① 本基金の目指す領域(“学際・総合／政策研究”、“国際共同研究”、“未来指向研究”)及び方向性(“問題解決型研究”で具体的な提言を含むもの)への適合(必須条件)
 - “学際・総合／政策研究”“、“問題解決型研究”であることが必須条件。
- ② 被災地の環境問題の改善・解決、及び持続可能な社会の復興・再生への貢献度(研究テーマ設定の妥当性、有効性)
 - 現状、課題等に鑑み、適切、効果的な研究テーマ設定等がなされていること。
- ③ 研究の実効性
 - 事業計画、手法等の観点から、着実、かつ実効性ある研究の遂行が期待されること。
- ④ 予算設計の妥当性
 - 研究の遂行上、適切、的確な予算計上がなされていること。
- ⑤ 案件推進能力
 - 実施主体が当該研究の遂行に十分な能力を持つと考えられること。
- ⑥ 関連実績
 - 関連する研究実績について評価します。申請テーマ等に関する研究論文、メ

ンバーの方々の略歴等から、実績の有無、質の観点で評価します。

但し、新たな取り組みやチャレンジ等を妨げるものではありませんので、そうした方向を志向している申請の場合には、③（研究の実効性）の補完的な項目として評価を行います。

⑦ 社会への発信

- 研究計画の中に、社会への発信の仕組みが組み込まれていることを歓迎します。

2.5 継続申請

過去に当基金から助成を受け、助成期間が終了した研究につき、その研究内容を継続する申請も受け付けます。但し、単なる従来の延長線上の研究ではなく、より高い成果を目指して研究内容を発展させたものに限りします。

2.6 非対象研究

下記のような研究は対象外とします。

- ① 営利（特許取得、商品開発等）を目的とした研究
- ② 政治的・宗教的な活動を目的とした研究
- ③ 他機関から、本基金の申請額を上回る助成を受けている、あるいは受ける予定のある研究
- ④ 他機関からの委託研究
- ⑤ 他の団体等への委託等が大半を占める研究
- ⑥ 既成の研究機器の購入のみを目的とする研究
- ⑦ 研究装置の製作のみを目的とする研究
- ⑧ 特定の事業者や個人の利益に寄与すると見なされる研究

3. 助成期間

2013年4月より3年以内とし、この期間を対象として1年単位で助成契約を締結致します。

但し、既に研究を開始している団体については、2012年10月から2013年3月を先行期間として、助成期間とすることができます。

4. 助成金額と用途

4.1 1件当たりの助成金額

1案件当たりの助成金額の上限は設定しません。但し、当該案件を効率的に実施するために必要な金額の範囲内とします。

4.2 助成の対象となる費用

以下の費用を助成の対象とします。

人件費（下記 4.3 参照）	旅費・交通費・宿泊費
機械・物品購入費	業務委託費
借料・会議費・通信費・印刷費	その他

なお、上記に関連した留意点は、下記①～③のとおりです。

① 業務委託費（第三者への委託）

当該研究の一部を第三者に委託する場合は、申請書の「実施体制」の欄に具体的な委託内容も含め明記してください。当該箇所に記載なく新たに発生した第三者への委託は、改めて当社の承認を得る必要があります。

業務委託費の1件当たりの金額が年間100万円を超える場合は、会計報告の際に、業務委託費の内訳が分かる資料を提出して頂きます。

② 費目の内訳の記載

「消耗品」「事務用品」は、助成が決定した際に、内訳を明記していただきます。

③ 一般管理費

一般管理費については、組織運営、会計処理上等の理由により計上せざるを得ない場合には、年間予算総額の10%を上限として申請して下さい。（「その他」の費目に記載してください。）

4.3 助成の対象とならない費用

申請団体が大学、高等専門学校もしくは公的研究機関の場合、当該団体に所属する常勤職員の人件費は助成対象外とします。但し、アルバイト、ポストドクター等の人件費は助成の対象とします。

その他の団体は、常勤・非常勤を問わず、申請案件に関わる人件費（事務局人件費を含む）を助成の対象とします。なお、一般社団・財団法人、公益社団・財団法人、特例民法法人であっても、行政の外郭団体等については、人件費は助成対象外とします。

4.4 自己資金比率

申請団体が、特定非営利活動法人（NPO法人）及び一般社団・財団法人、公益社団・財団法人、特例民法法人の場合、案件の総支出額に占める自己資金の比率が20%以上であるものを対象とします。

申請団体が大学、高等専門学校、公的研究機関等の法人の場合は、当該団体に所属する常勤職員の人件費を助成の対象外とすることから、自己資金は不要です。

なお、自己資金とは、自主事業の収入、会費・寄付金、他の助成金・補助金等とします。但し、助成金・補助金については、本基金の申請時点で取得が確定しているもののみとします（申請段階であり取得が確実でないものや、金額が確定していないものは不可）。

4.5 助成金支払い時期

- ① 6.1 に記載する助成契約締結後、初年度分（助成開始時期から 2014 年 3 月まで）の助成金を支払います。
- ② 複数年に亘る案件については、2 年度以降の助成金を各年度の 4 月末日までに支払います。

5. 報告の義務

5.1 進捗報告

複数年に亘る助成の場合は、2013 年 10 月末日を第 1 回目として、以降 6 ヶ月毎に所定の様式で案件の「進捗報告書」を提出して頂きます。助成期間が 1 年の場合は、進捗報告書を 1 回提出して頂きます。助成終了時の進捗報告書は 5.3 に記載の「最終報告書」を以ってこれに代えます。

5.2 会計報告

2013 年 10 月末日を第 1 回目として、以降 6 ヶ月毎に所定の様式で案件の「会計報告書」を提出して頂きます。

5.3 最終報告

助成終了後に所定の書式にて「最終報告書」（会計報告を含む）を提出して頂きます。

5.4 現地訪問

助成案件の実施状況および成果確認のため、必要に応じ現地を訪問させて頂く場合があります。

6. その他の条件

6.1 助成契約の締結

助成を受ける団体等は、上記条件を含む助成契約を当社と締結して頂きます（当社所定の契約書にて締結頂きます。）。なお、契約主体は、申請代表者が所属する団体とします。（契約期間は、3. に記載の通り助成期間全体を対象とします。）

助成契約の締結後に、被災地の状況変化に伴い研究内容の見直し、変更が必要な場合には柔軟に対応します。

6.2 成果の公表

助成案件の成果は三井物産ホームページ等で公表する場合があります。また、本基金の成果発表会や講演会等で発表をお願いする場合があります。

6.3 助成を受ける団体の成果等の公表

助成を受けた団体には、当該団体のホームページ、ニュースレター、会報等を通して、助成案件の推進及びその成果を広く社会に発信して頂きます。対外公表する際には、本基金から助成を受けた旨を明示して頂きます。

助成を受けた研究の成果に係る特許や著作権等の知的財産権は、申請者に帰属します。当社がそのような権利を主張することはありません。

7. 選定方法

7.1 選定プロセス

助成研究の選定は、社外専門家による1次審査及び社外有識者を含む案件選定会議による審査、ならびに当社役職員により構成される案件審議会による総合的判断に基づき決定されます。

なお、申請総額の大きい研究については、上記の選定プロセスに加え、1次審査の通過案件を対象に、プレゼンテーション審査を実施いたします。プレゼンテーション審査の対象案件の申請代表者には、2013年1月末日までに審査時間等の詳細をご連絡いたします。

【プレゼンテーション審査日程】

日 時： 2013年2月14日（木）

場 所： 三井物産株式会社 本社 （東京都千代田区大手町1-2-1）

7.2 選定結果の通知・開示

- ① 最終的な選定結果は、2013年3月中に、申請代表者にご連絡します。
- ② 選定された研究は、当社ホームページにて公表します。

なお、今回選定に至らない研究に関しては、次回の再応募を妨げません。

8. 応募手続き

8.1 応募締切

2012年11月30日(金)

消印または宅配便受付印有効。

直接の持込やバイク便は受付ません。

8.2 申請書類

所定の申請書類を用いて提出してください。所定の申請書類は、三井物産ホームページ <http://www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/fund/index.html> からダウンロードしてください。

【提出資料】

提出資料及び必要部数	申請団体（申請代表者）	大学 高等専門学校 公的研究機関	公益法人※ NPO 法人
①申請書類（紙媒体）			
申請書[1] 概要・予算（エクセル）	3部	○	○
申請書[2] 研究内容詳細（ワード）	3部		
②申請書[1][2]の電子ファイル			
申請書[1] 概要・予算（エクセル）	1部	○	○
申請書[2] 研究内容詳細（ワード）			
アンケート			
③団体の定款（又はこれに相当する規約）	2部	不要	○
④役員会など、団体の意思決定機関の名簿	2部	不要	○
⑤財務関連書類3年分 直近の過去3年間の収支の詳細がわかる資料。 法人格取得から3年未満の団体は、提出できる範囲で可。 但し、3年間の実績を裏付ける資料をご提出下さい。	2部	不要	○
⑥団体パンフレット パンフレットがない場合には、概要や実績を示す資料	2部	不要	○
⑦送り状	1部	○	○

※一般社団・財団法人、公益社団・財団法人、特例民法法人

注) ①申請書類（紙媒体）

※ 申請書[1]の団体代表者印には、公印を押印してください。

※ A4片面・白黒印刷の上、申請書[1][2]をひとまとめにし、3部（原本及び写し2部）提出してください。1部ずつクリップ等を使用してまとめ、ホチキスどめはしないで下さい。

注) ②電子ファイル

※ 上記①の申請書[1]、申請書[2]、アンケートを、CD-R等の電子記憶媒体に保

存し、同封してください。申請書[1][2]の内容は必ず紙媒体と同一としてください。但し、電子ファイル版申請書への捺印は不要です。

- ※ 申請書[1]_概要・予算はエクセルファイル、申請書[2]_研究内容詳細はワードファイルのまま保存してください。PDFファイル等への変換はしないでください。Office2007以降で作成された場合は、Office2003以下と互換性のある形式(xlsまたはdocファイル)で保存してください。
- ※ アンケートについては、電子ファイルのみの提出で結構です。

8.3 申請書類に関する注意事項

- ① 申請書類は書面で郵送あるいは宅配便による提出のみ受け付けます。(電子メールでの送付、バイク便や直接の持ち込みは受け付けません。)
- ② 申請書は片面印刷としてください。クリップ等を使用し、ホチキスどめはしないでください。また、白黒でも認識できるようにしてください。申請書以外の書類は、その限りではありません。
- ③ 提出頂いた申請書類は返却致しません。また、一度提出頂いた申請書の差し替えはできません。
- ④ 必要に応じて、団体概要を示す資料などの提出をお願いする場合があります。
- ⑤ 申請書の不足や記入漏れ等の不備がある場合は、申請を受け付けない場合があります。
- ⑥ 締切日以降の受付は、一切いたしません。

8.4 申請書類の提出先

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1
三井物産株式会社 環境・社会貢献部
環境基金「研究助成（復興）」係

8.5 お問い合わせ先

電話 : 03-6705-6153
メール : 12MEF-KenkyuTKVCF@mitsui.com

8.6 個人情報の取り扱い

当社は、個人情報保護法及び関連諸法令を遵守し、申請者から提供頂いた個人情報を適切に管理し、以下の通り取扱います。

① 個人情報の利用目的

申請者から当社に提供頂いた個人情報は、その全部または一部を、以下の目的で 利用致します。

- 助成案件の選定及び助成実施のため
- セミナー、交流会など当社主催のイベントへのご案内のため
- その他上記業務に関連・付随する業務のため

② 個人情報の提供

当社は、申請者の同意を頂いた場合または法令に基づく場合を除き、申請者より 提供頂きました個人情報を第三者に開示、提供致しません。

③ 個人情報の預託

当社は、上記①の利用目的を達成するために、申請者の個人情報を当社の委託先に預託する場合があります。当社は、申請者の個人情報を当社の委託先に預託する場合には、適切な委託先を選定するとともに、委託先の義務と責任を契約により明確にする等、委託先において個人情報が安全に管理されるよう適切に監督致します。

④ 提供内容の開示、訂正及び利用停止等について

申請者から申請者自身に関する個人情報の開示・訂正・利用停止・消去・第三者への開示・提供の停止等の依頼があった場合は、ご本人であることを確認させて頂いた上で、特別の理由がない限り速やかに対応致します。詳細は上記 8.5 三井物産環境基金事務局までお問い合わせください。

以 上